

DAKEDESHITA
TSUYOKUNAR
VISHITERU NC
2011/11/11
REST ST
DAKEDESHITA
TSUYOKUNAR
VISHITERU NC
2011/11/11
REST ST

中 林 合 共 依 不 吉 岡
間 香 日 五 衛 雲 育 大 輔
京 大 京 天 青 山 里
安 直 婦 苺 乃 乃 里
直 安 婦 苺 乃 乃 里

TOKYO ASYMMETRY KAN

REWRITE

rehgil-er

Story BY KONDO YUKI Directed By KAMIZATO MORIHITO

YOSIDA DAISUKE MIYAZAKI YURI FUKUSHITA IKUKO
AOYAMA MISONO IMAGA SHUN AMANO MEIKO HONDA MASAE OHARA MAKOTO NAKAMURA ASUKA KIMPARA NAOFUMI

STATION COYOTE
1/11/11 - 2011/11/23
TERU NO HIBIKI DAKED
OKUNARERU KIGASHITA
DESHITA

演出 神里盛仁
作 近藤正孝

MAKOTONI VRI GYLOGOSY I WASHI TA
GORAI JOI TADAKI
HONJI TSUNA

さようなら

東京アシンメトリー館

ご挨拶

出会いの後には必ず別れがありますが、別れの後には必ず出会いがあるわけではなく、むしろ綺麗に終われないことも多いのです。

出会いと別れは対称で、別れと出会いは非対称。

別れを前提とした非対称な館が「また何処かで」と声をかけるのは無粋と言うものなので、こうやって声をかけるのです。

『せめて最後は幸せな結末を』

東京アシンメトリー館



イッセイ
吉岡大輔

ミコト
宮崎優里

ストーリー

学生時代に知り合い、共同作家、そして夫婦となったサスペンスホラー作家であるイッセイとミコト。

ここ最近では個人での仕事が増え、2人の関係には終わりが見え始めている。

そんな中、ミコトは毎月出版に勤める大石から童話『想出鳥』を基にした小説の執筆が依頼される。手が腱鞘炎になったというミコトの替わりとしてイッセイは小説の執筆を始める。

イッセイが書き始めたのは、想出鳥という伝説の鳥を捕まえるために異国の地へ降り立った旅人たちの話。想出鳥を追いかけるうちに「旅人たちの休憩所コヨーテ」にたどり着いた旅人が一人、また一人と謎の死を遂げてしまう。推理小説に出てくるような探偵に憧れる「自称名探偵」である少女ミノリがその謎を解明しようと奔走する。そんな物語だった。1人目の犠牲者が出たところでイッセイは筆を休めた。

ミコトはその小説に違和感を覚える。イッセイが普段書いている小説とはテイストが違うのだ。

イッセイが「仕事だから割り切って書いている。自分が書いてて楽しいとか、そんなことは関係ない」と答えるのを見て、ミコトは落ち込む。そんなミコトを横目に、イッセイは続きを書き始める。

小説ではミノリが調査を始める。あくまで自称であるため、その行動は的外れ。周囲の人物もどちらかというところ、非協力的。ミノリは名探偵であろうと足掻くが、次々と被害者は現れる。

ミコトはますますイッセイに対する不信感を募らせる。不満を口にしようとするが、職場に乱入してきた大石出版の社長に妨害される。社長は権力をかざし、自分を小説に出せという。「生きている人間は小説のモデルにしない」というポリシーにより、イッセイは頑なに社長の申し出を断るのだった。

社長が帰り、イッセイの執筆が再開される。不満を口に出来なかったミコトはイッセイがパソコンを離れた隙に小説を勝手に進行させる。それはイッセイが書いていた内容よりもさらにメチャクチャな、でも楽しい小説だった。

それを目にしたイッセイは激高する。「昔みたいに一緒に仕事があった」ミコトは仮病を使って、イッセイに自分の仕事を渡し、最終的に2人で作品を作ろうとしていたと明かす。納得がいかないイッセイは小説の続きを再び自分で書こうとするが、その時大石が紙の束を持って入ってくる。「自分も小説家になりたい」と言う大石が持ってきたのは大量の自作の小説だった。イッセイとミコトはそれを読み、厳しい評価を下すが大石は「書くのが楽しいから」とめげずに去っていく。その姿を見たミコトは「やっぱり2人で書こう。ただ楽しんで書いていた昔みたいに」と提案する。イッセイは苦笑いしながらその話に乗る。

イッセイとミコトにより改めて物語が紡がれる。執筆を通してミコトはミノリを見つめる。そして気づく。ミノリのモデルは自分だと。かつて推理小説の名探偵に憧れ、挫折し、小説家を目指した自分なのだと。事件を解決したミノリは1度でも探偵を出来たことを満足し、推理小説に出てくるような名探偵になるのではなく自分が憧れた名探偵を描く小説家になることを目指すのだった。

小説が完結し、ミコトはイッセイに向き直る。イッセイは生きている人間に小説に出さない。つまり、小説に出てくるミコトは死んでいることになる。イッセイは感情を爆発させるように語りだす。「自分は夜が苦手だった。だが、ミコトといることで夜への恐怖を忘れることが出来た。ミコトを失って、再び夜が怖くなった。ミコトを忘れないために、ミコトと再び出会うためにイッセイは1つの物語を書き始めた。ミコトが死ぬ直前に2人で引き受けた『想出鳥』に関する小説の執筆をする物語を、ミコトが死ななかった2人の物語を」

『リライト』と名付けたその物語が完結し、ミコトが消え始める。絶叫するようにミコトを引き止めるイッセイにミコトは「2人の物語じゃなく、自分のための物語を書いてみたら」と告げる。イッセイはその言葉に奮起し、新たな物語を書き始める。その姿を見たミコトは笑顔で消える。「ありがとう、ずっと幸せでした」と、童話『想出鳥』の最期の言葉と同じ言葉を残して。



対談 前編

東京アシメントリー館(以下TAK)閉館公演が始まりましたね。心境は？
 近藤(以下近)・・・不思議な感覚ですね。
 神里(以下神)・・・2年以内に3作品できた方がいいなと思って始めたので、心の準備はバッチリ。いきなり終わりがくると、予期しているのでは覚悟が違いますから。
 早速「リライト」についておしゃべりしますが、この作品はどういった経緯で生まれたんですか？
 近・・・神里が昔やっていた劇団で『お宝』という作品があったんです。それを近藤的感覚で書き直したらどうなるか、というのが始まりでした。すなわち、『お宝』のリライトですね。
 リライトすることに対するプレッシャーとか、葛藤みたいなものはなかったですか？
 近・・・プレッシャーもありましたけど、こんな機会じゃないと他人の作品を書き換えるなんてないので、楽しみではありました。どちらかって言うと『お宝』に関わった人に見てもらって感想を聞きたいという感情のほうが強いですね。
 神・・・今回きまぐれゲストで参加している寿さん、そのときの出演者の1人。近藤は制作お手伝いでした(笑)
 リメイクってことですけど、苦勞された点は？
 近・・・単純にゴールまで持っていくのに苦勞しましたね。でも、化けたらすこい作品になるって予感もあって。
 神・・・いやあ、化けたね。似ているようでまったく別の作品になっているし。
 神・・・こっちは過去にやった作品で、それなりに思入れや基盤がある分、自分との間いがネックになったなあ。同じものを創るならTAKでやる必要ないし、かといって持味を消してしまつとわざわざリライトした意味もなくなるわけ。あと世界観を2つ創るのが難儀した。これまで行つた

2つの作品とミノリたちが活躍する「物語の中」の世界観が1つ、もう1つは大宮勲「が存在する世界観」。
 一気に突っ込んでみましたが、やはりこれまでの作品と繋げてあるんですね。
 近・・・「スイッチ」ではどこも繋げていないように見せかけていたんですが「リライト」では「クロバー」とも「スイッチ」とも繋がっているような描写があります。つまり、お宝(クロバー)と近藤(スイッチ)と近藤(リライト)と繋がっているのではありませんか？(クロバー)と近藤(リライト)と近藤(スイッチ)と繋がっているというドラゴンクエスト方式を取ってみました。
 一番好きなシーンとありますか？
 神・・・今までTAKではアドリフで繋ぐシーンはなかったんで、今回は毎回そこを観るのが楽しみです。いろんな意味でハラハラする。
 近・・・ラストシーンです。
 神・・・そこ言ったら卑怯だ(笑)
 近・・・あれが書けた時点で、「イケる！」と思いましたが(笑)
 神・・・あのラストシーンだけを観たら、どこの団体かわからないね。
 「リライト」の大宮勲は2人がモデルですか？
 神・・・見る人が見たらそう思っても仕方ないよね(笑) そうやって観てもらうのも面白いと思うし。
 近・・・もちろん違いますよ。モデルだったらどっちか死なないと(笑)
 神・・・本は作家の分身でもあるわけだから、全部近藤ですよ(キッパリ)
 近・・・だが近藤が見るのも面白いと思えますからね。大石もあの意味では作家的思考を持っていますから。
 神・・・それヒント？(笑)
 近・・・そう言う意味では、今回は「ここが近藤目線」と自分で断言できる部分は無いんです。全部が自分で全部が違つても。全体にいろんな想いが込められています。



大石 福下育子

社長 きまぐれゲスト





リヤン
イマガ紫雲

香奈恵
天野芽衣子



想出鳥

ミノリ
青山みその





ケン
今井正衛

富田
大原誠

対談 後編

今回、誰もが気になったと思う料金設定。値段が上がつていくのには理由があるんですか？
神…一般的な意識として芝居のチケットは高い。だからクローバーでは赤字覚悟で無茶をした。でも良いものにはお金を払ってでも観たいと思うわけだし、1回目の公演が上手いけば次からは無茶せずに打てるかなという挑戦もあった。値段を上げるのは簡単なことだったけど、やっぱり高いから観れないって人のために少しでも安くしたいなと。
近…前回はそれも考慮して座席ごとに料金を変えたんですが、席はかりが売れてしまい安い席が残ってしまいました。みなさん良い席で観たいんですね、せっかくなら、で、どうするかって考えたら、近年は公演の前半が埋まらないって聞くので、思い切ってこの料金設定にしました。
神…お陰様でTAKはクチコミでの評価が高く、公演の後半はいつも売切れ状態。今回は前半も売り切りたい。ただこのシステムって、クチコミ評価悪いとどんどんお客様減るって寸法ですよ！いや、自信を持って送り出します！
近…では値段が上がるからといって内容やサービスが良くなるわけではないんですね。なにかしなくちゃいけないという強迫観念にとられるね(笑) なんかする？
神…神里の面白トーク
近…神は書いてくれるんですよ？
神…そこはアドリブで大丈夫ですよ。
神…なにかしらのサービスができたならと目論んでいます。
近…ではライトにちなんでの質問。小さい頃の夢ってなんですか？
神…天皇家下になるって言うてた3歳児
神…ウルトラマン☆からの大統領…ちょっと被ってるやん！

子供が生まれるとすれば、どう育てたいですか？
神…男の子だったら「父上」、女の子だったら「お父様」と呼ばせたい。でも実際は子供のように一緒に遊ぶはず。
近…考えたことすらないです。
神…あなたの周りの変な人がいれば教えてください
神…隣(近藤)の人？
近…普通ですよ(笑)
神…福下育子さんかな
近…納得。
近…大富豪だったら？
神…悪人になつてると思っています。
神…でっかいお家の庭にプール作って、高跳び台も設置しようかな。高いところ嫌いだから、他の人に飛ばせる…お金払って。
近…アジアになを占ってほしいですか？
近…前世ですかねえ。すごいものが見えそうです。自分がどうこうじゃなく、アジアだから。
神…占うってか見てたいよね、あの人。せっかくだから世界の未来を覚えてもらおうかしら。
神…もし自分が死んでいるしたらどうしますか？
神…寺に行ってお経を聞いてみる。成仏しそうなうたに逃げる。
近…悪いことします。
近…お互いに暴露しておくことはないですか？
近…ないです！
神…ええと、稽古場では平気な顔してスカスカ台詞をカッティングして、内心ビクビクしてました(笑)
近…一緒にやっていくに連れて遠慮がちになったのは気づいています(笑)
神…きっと現場の人たちに慣れた近藤が、みんなの前でも不機嫌な顔するようになったからだと思います(キッパリ)
近…好きにしてくださいってスタンスでいるよりいいと思いますけどね(ニヤリ)



閉館にあたり

近藤悠季と神里盛仁が会って10年目に東京アシンメトリー館の企画が持ち上がったのは、単なる偶然でしかない。そもそも2人は奇妙な関係で、出会った当初から心を通わせていたわけでも、なにかで話が盛り上がったわけでもない。ただ神里が近藤の挙動不審な行動がおかしくて観察していた。

そして今なお一緒にいる姿を見ても、とても仲が良いようには見えない。

そんな2人が回数限定のユニットを立ち上げ、次の団体コンセプトを提示した。【存在を肯定した舞台作り】【1日でも長い公演期間】【台本&演出プラン先行の製作】【高満足度な空間のご提供】。これについての説明はHPで掲載されているので割愛させていただくが、どれも彼らが小劇場で感じた不平不満を解消させるものだった。

汲み取れるのは、彼らは舞台が大好きだということだ。1人でも多くの人に演劇の魅力を伝えたいと望んでいなければ、こんな提示はしないだろう。だから彼らも精一杯のおもてなしをする。それは観客にだけでなく、関わっているすべての人々に対して。

彼らの気持ちや意志に賛同した人も少なくなかった。フライヤーやパンフレットなどのデザインを担当したイマガ紫雲、現場では手の届かないところをフォローした青山みその、中村明日香の振付は世界観を広げるのに貢献していた。今回参加できなかった上田晴美や村君太郎の存在も大きかった。

始めから終わりが見えている団体だからこそ好き勝手できるというのは大きな特権だ。とはいえ、これだけの結果を出せたのに閉館とは実に悔やまれる。

継続について意志は本当にはないようだ。

彼らからみなさまへ、最後の言葉です。

楽しんでいただけましたか？ 私たちは楽しかったです。

アリシア
中村明日香

ジェニー
金原直史

クローバー

作 近藤悠季
演出 神里盛仁
出演
つばさ … 青山みその
シュー … 潮見勇輝
涼子 … 天野芽衣子
ノゾミ … イマガ紫雲
メガネ … 今中かつあき
明美 … 上田晴美
チェン … 金原直史

つばさ … 担当していたフリーペーパーがスポンサーの撤ながらも懸命に働いている。
シュー … クローバーは閉店し、フリーターとなる。さら出会いガイドを頼む。2泊3日の小旅行のつもし、民族音楽とラップを融合したニュージャン
涼子 … 勤めていた美容室でスタイリストとして働い
ノゾミ … 偶然チェンが粘土細工を作っている瞬間を目撃。チェンをゴーストクリエイターとして粘土細工批判覚悟で自分で作った作品が思いがけずに大
メガネ … 大不況により、勤める会社にリストラの嵐が吹品が大当り。出世コースに乗る。社内結婚をし、
明美 … クローバー閉店と同時に姿を消す。とある大物
チェン … ノゾミと組んで粘土細工作家として活動するも、

退により廃刊。現在はマンションの壁紙の専門誌の担当として半ば腐り
にまたもや浮気が原因で涼子に振られ、失恋旅行に出かけ、リャンとリだったが、とある集落で民族音楽に触れ、影響を受ける。現在は帰国ルのミュージシャンとして活躍中。
ている。トークスキルもあって、人気はお店のナンバー2。
メガネの作品とされていた粘土細工もチェンが作ったものだ気づき、作家としてデビュー。クローバー閉店後、チェンと連絡が取れなくなり、ヒットする。
き荒れるが、目立たなすぎて対象から外れる。結果、彼が開発した新商2児の父親。
議員の秘書をしているという噂があるが詳細は不明。
その行動がボスの逆鱗に触れ姿を消す。現在も消息不明。



スイッチ

作 近藤悠季
演出 神里盛仁
出演
イズミ … 上田晴美
クニ … 白道剛志
SORA … 天野芽衣子
理香 … 天野芽衣子
葵 … 宮崎優里
ボニー … 青山みその
クライド … 池上崇士
ドコソノ … 巖大介

イズミ … 相変わらずSORAを溺愛しながらファウンテ客から人気が出ていることに気づき、嫉妬する
クニ … 相変わらずイズミにほのかな想いを持ちつつ、気持ちがないことに薄々気づき始めてきた。
SORA … 相変わらずイズミの弟として3日に1回のべ最近お店の新しい常連から告白され、戸惑って
理香 … 相変わらずファウンテンの常連としてSORAに対してちょっとだけ怒っている。
葵 … 部署異動の希望が受理され嫌な上司から離れる現在求職中。
ボニー& … トレンディードラマごっこがブームとなり結婚
クライド … ファウンテンに入り浸っている。
ドコソノ … 催眠術師を辞め、占い師を経て、数年前にマダ忙しくてファウンテンに顔を出す暇も無くなり、

ンを経営する日々。SORAが人間らしさをもったことで、女性の常連自分とSORAの幸せを願う自分の狭間で苦しんでいる。
ファウンテンの店長として働く日々。イズミが自分に対して友人以上の
スでボロが出そうになりつつもなんとか誤魔化しながら過ごしている。
たちを見守る日々。いつの間にかファウンテンに来なくなったドコソノ
も、異動した先でもっとうっとうしい上司と出会い、殴って退職する。
するも、屋ドラごっこがブームになり離婚する。それでも2人仲良く
口の養殖を行う会社を設立。品質も良く、結構儲かっているらしい。
会社を潰してしまおうかと密かに企んでいる。



リライト

作 近藤悠季
演出 神里盛仁
出演
イッセイ … 吉岡大輔
ミコト … 宮崎優里
大石 … 福下育子
ミノリ … 青山みその
リャン … イマガ紫雲
香奈恵 … 天野芽衣子
ケン … 今井正衛
富田 … 大原誠
アリシア … 中村明日香
ジェニー … 金原直史

イッセイ … きっと書き続けていることでしょう。
ミコト … きっと微笑んでいることでしょう。
大石 … たくさんの作品を書き、出版社に持ち込むも、い果たすどころか借金までして自作の小説を自
ミノリ … 小説家を目指す。イッセイにあたる人物がいな
リャン … 富田・ケンと冒険をするうちに、吊り橋理論に落ちし、ケンと賞金稼ぎトリオとして旅を続け
香奈恵 … コヨーテの妊娠は結局虚偽だったが、帰国し、
ケン … 富田・リャンと賞金稼ぎトリオとして旅を続け。しばらくは荒れたが、今では左腕1本でク
富田 … リャンと結婚。ケン・リャンと今度は雇い主でだったが、遺伝的に元々の運動能力も高く、今
アリシア … 帰国し、知人の紹介でTVに出てカルトな人気影響を与えることになる。
ジェニー … 帰国し、女として香奈恵と暮らすも、香奈恵に

結果は全く出ない。そんな中、自費出版の話を持ちかけられ、貯金を使費出版する。
いため、小説家になれるのかは不明。
より富田と恋に落ちるが、当然富田の父親には認められず。2人は駆ける。
ジェニーと暮らす中で再び妊娠。今度は元気な男の子を出産する。
る。対等な立場の3人組としての最初の旅で富田をかばって右腕を無くマをも倒す。
はなく、対等な立場で旅をすることになる。最初は足を引っ張るだけまではケンの立派な相棒となっている。
が出る。その企画で本を出版した占い本はそれなりに売れ、ドコソノに子供が産まれたことで父性目覚め、再び男として生きる決意をする。

